

支えられて精一杯に

この3月をもって園長生活にピリオドを打つことになりました。気が付いたら65歳でした。曲がりなりにも園長を26年間務められたのは、皆さんの寛容さと支えに負うと痛感します。

26年前は40歳にもならない新米園長でした。幼稚園のことは少しも知りませんでした。子どもがいなかったので、子育てのことも何一つ知りませんでした。何をすることも、何を言うにも、内心はドキドキしっぱなしでした。そんな若造を「えんちょうセンセイ」と呼んでくださいました。ありがとうございました。皆さんのおかげで少しずつ動き出すことができました。

26年のうち半分以上は富津の望みの門の特養施設長兼務生活でした。富津と千葉の間を往復し、1日を二つに割って過ごす日々でした。この時期は文字通り「半人前」でした。幼稚園のために割くことができたのは自分の時間とエネルギーの半分しかなかったのです。外部の方々からは「滅多につかまらない・・・」という枕詞をつけられる始末でした。それぞれの場に良い仲間がいて支えてくれました。そのみんなに無理を強いていました。

26年のうち肩書きが「愛隣幼稚園長」ひとつになったのは、2001年4月からであり、それは最後の8年間だけのことでした。やっと腰を据えて幼稚園のことに取り組めるようになりました。57歳でした。未就園親子ルーム「つぼみ」を開設しました。それまで年額300万円以上の借地代を大蔵省に払っていた園地を、一括買い取りました。預かり保育「ただいまルーム」を始めました。ホームページを立ち上げました。創立50周年事業をしました。「園長かいじゅうからの子育てメッセージ」を刊行しました。そして園舎の増改築をしました。あっという間の8年間でした。どのことにも一緒に歩んでくれる良い助け手を得ることができました。

私の教師生活の出発点と根拠は知的障害児の教育です。知恵遅れと呼ばれる障害を持つ子は、現在と将来の生活に困難さをたくさん抱えています。出来ないことがたくさんあります。その困難さを少しでも減らして、より良く生きられるようにするのが知的障害教育の仕事です。

より良く生きられるようにするにはどうするか。将来のために今を我慢して訓練され、いろいろな力をつける？それで将来より良く生きられるようにする？そうではないと私たちは考えます。今を良く生きることが何より大事。今を良く生きて、それを積み重ねていく。それが将来より良く生きることにつながる。私たちはそう考えます。

知恵が遅れているからといって今を我慢させるべきではない。彼らも今を存分に充実して生きるべきです。それは知恵おくれの子だけでなく、すべての子どもに通じるものだと確信しています。愛隣幼稚園の教育も全く同じ考えに立って作り上げてきました。子どもは半人前だから、今を我慢させてでも将来のためにいろいろな力を身につけさせるのが教育、とは考えません。今を充実して生きることが本物の力を育てるのだと考えるのです。

自分自身の26年間を振り返ってみても、そのように思います。いつも精一杯、充実して生きてくることができました。苦労はそこそこありました。より良く生きるとは、何の苦労もないということではありません。そしてその苦労があったからこそ、支え手の存在にも気が付かされるのです。みなさんありがとう。本当にお世話になりました。